

2023 年度プロジェクト評価に伴う意見書

2024 年 7 月 10 日
国立天文台プロジェクト評価委員会

国立天文台長 殿

野辺山宇宙電波観測所、水沢 VLBI 観測所、ASTE プロジェクトを対象とするプロジェクト評価（国際外部評価）を 2024 年 3 月に各観測所および三鷹キャンパスにおいて実施しました。本委員会の下に設置した 3 つの外部評価委員会が各プロジェクトの評価を実施し、外部評価報告書を取りまとめました。本委員会におけるこれらの報告書の審議結果を踏まえ、留意いただきたい点および国立天文台全体として考えていただきたい意見を以下にまとめます。外部評価報告書とあわせてご検討いただきますよう、よろしくお願いいたします。

（1）今回、国立天文台執行部より、3 つのプロジェクトに共通の以下の「評価の観点」が提示されました。

国立天文台が運用する野辺山宇宙電波観測所、水沢 VLBI 観測所、ASTE プロジェクトは、現在独立に運用、保守・予算・人員を管理しているが、そのままが良いか、より効率的な運用をすべきか。
--

各外部評価委員会には、国立天文台執行部から 3 つのプロジェクトの基礎資料（予算・人員・論文数の年推移）が提供されましたが、担当プロジェクト以外のプロジェクトの評価資料は共有されませんでした。そのため、限られた情報量で上記観点を適切に評価するのは困難な状況にありました。評価報告書の答申は、こうした状況下での意見であることをご留意ください。

（2）野辺山宇宙電波観測所の 45m 電波望遠鏡は、単一鏡の観測装置としては（世界的にも）非常に貴重であり、海外からも継続を望む声が聞かれます。2022 年度より開始した有料望遠鏡時間制度（注：学生には無償利用時間を提供）のもとで望遠鏡の有効利用を続けるためには、（利用者にすべてを任せるのではなく、特に学生などの観測初心者に対しては）経験のある人とうまく協力して観測してもらうなど、より利用しやすい枠組みを考えると良いのではないのでしょうか。

以上